## 1.1.　企業理念と企業目標

企業活動の目的は利益を上げること、社会に貢献することです。そのため、多くの企業が「企業理念」や「企業目標」を掲げて活動をしています。この企業理念と企業目標は、基本的に変化することのない普遍的な理想といえます。

ところが、社会環境や技術など、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。企業理念や企業目標を達成するには、長期的な視点で変化に適応するための能力を作り出していくことが重要です。

## 1.2.　CSR

「CSR」とは、企業が社会に対して果たすべき責任を意味します。多くの企業がWebページを通じてCSRに対する考え方やCSR報告書を開示し、社会の関心や利害関係者の信頼を得ようとしています。

企業は、利益を追求するだけでなく、すべての利害関係者の視点でビジネスを創造していく必要があります。企業市民という言葉があるように、社会の一員としての行動が求められています。それが、社会の信頼を獲得し、新たな企業価値を生むことにつながるのです。

不正のない企業活動の遂行、法制度の遵守、製品やサービスの提供による利便性や安全性の実現などは、最も基本的な責任です。さらに社会に対してどのように貢献していくべきかを追求し、環境への配慮、社会福祉活動の推進、地域社会との連携などを含めてCSRととらえるべき時代になりつつあります。

## 1.3.　所有と経営の分離

「所有と経営の分離」とは、企業を所有する株主と、経営を執行する経営者で、役割を分離する原則のことです。

日本の株式会社において、経営の意思を決定する場が「株主総会」です。業務執行の意思決定をするのは「取締役会」で、その中から代表取締役が選任されます。代表取締役は、経営執行担当者となり、会社を対外的に代表しているとともに経営の最高責任者でもあります。このように、所有と経営の分離とは、取締役が分離される原則のことをいいます。

企業活動を行うにあたって、経営と、株主や投資家などの利害関係者との信頼関係の構築や、経営の透明性を高めることが求められています。

## 1.4.　ゴーイングコンサーン

「ゴーイングコンサーン」とは、“企業が永遠に継続する”という前提のことです。ゴーイングコンサーンでは、企業が継続する責任を負い、継続していくための経営戦略を立てることが重要だと考えられています。例えば、今までの技術を活かしながら新しい分野に参入するなど、企業目的を多様化・多角化させることで、ゴーイングコンサーンを目指す場合もあります。

また、ゴーイングコンサーンを目指す上で、「BCP」や「コーポレートガバナンス」への積極的な取り組みが求められています。

●BCP

「BCP」とは、何らかのリスクが発生した場合でも、企業が安定して事業を継続するための、リスク管理手法または方針のことです。「事業継続計画」とも呼ばれます。

自然災害や事故に遭遇すると、情報システムが壊滅的なダメージを受け、事業を継続できなくなる恐れがあります。そこで、地震や洪水、火災やテロなどのリスクを想定し、各リスクの影響を分析します。その上で、重要な事業を選定し、事業を継続させるための計画と体制を整備します。また、計画や体制を見直し、改善し続けることも必要とされています。

●コーポレートガバナンス

「コーポレートガバナンス」とは、企業活動を監視し、経営の透明性や健全性をチェックしたり、経営者や組織による不祥事を防止したりするしくみのことです。

近年、企業や官公庁による不祥事が相次いで発生していることから、適切な社外取締役の選任や、情報開示体制の強化、監査部門の増強などを行って、企業を統治する必要があります。

コーポレートガバナンスの主な目的は、次のとおりです。

・経営者の私利私欲による暴走をチェックし、阻止する。

・組織ぐるみの違法行為をチェックし、阻止する。

・経営の透明性、健全性、遵法性を確保する。

・利害関係者への説明責任を徹底する。

・迅速かつ適切に情報開示する。

・経営者ならびに各層の経営管理者の責任を明確にする。